

## 「外国のジャンケンに挑戦しよう！」指導資料

### 【題材の概要】

児童が日頃から慣れ親しんでいる、ジャンケンを題材にした活動である。はじめに、「グー」「チョキ」「パー」の意味を確認したうえで、“Rock, Scissors, Paper, Go!”のかけ声で英語のジャンケンに取り組む。次に、Excuse me. Let's play janken.の表現を加え、英語を使った『ひたすらジャンケン』に取り組む。これは、構成的グループエンカウンターの手法のひとつで、制限時間内になるべく多くの友達とジャンケンをすることで、お互いの気持ちをほぐすことをねらいにした活動である。こうした活動を通して、仲のよい友達同士だけでなく、なるべく多くの人とふれ合うことで人間関係の幅を広げていくことをねらいにしたものである。

次に、ワークシートを配付し世界各国のジャンケンを紹介する。ワークシートには、ジャンケンの手のイラストや、かけ声、「三すくみの関係」を示した図などを載せ、児童がスムーズに活動に取り組めるよう配慮する。ここでの言語材料は、例えば Let's play (インドネシア) janken.のように、「～のジャンケンをやろうよ。」といいながら、友達を誘っていく。

最後に、外国のジャンケンと日本のジャンケンに共通しているところや、ジャンケンがいろいろある理由などについて、各自の感想や意見を発表し合いながら国際理解を深める。

### 【国際理解との関わり】

ジャンケンは児童にとって生活に根付いた遊びのひとつである。物事を決めるときに、ジャンケンをすることで人間関係を損なわずに円滑に決めることができる。特徴としては、グー（石）、チョキ（はさみ）、パー（紙）のいずれも、三つの中で一番強いというものではなく、例えばグーの場合は、チョキには勝ってもパーには負けるという、いわゆる「三すくみの関係」が成立することである。

そうした性質の遊びが日本だけでなく、東アジアや東南アジアの国々に多くあることを知り、外国の遊びに親近感をもちながら視野を広げていくことができる。

また、外国のジャンケンの中には、日本に古くから伝わる虫拳に非常によく似ているものもあり、遠く離れた場所で、似たような遊びが存在している面白さにもふれ、児童の興味、関心をひきながら、国際理解を深めさせることができると考える。

### 【各教科等との関連】

### 【題材内容との関連事項】 \*学校の実態に応じて活用してください。

#### <ジャンケンについて>

ジャンケンの起源については諸説あり、古くから伝承されてきた虫拳や数拳をもとに明治時代に日本で考案されたとする説や、中国あるいは朝鮮半島に起源をもち、九州を窓口日本に伝わるとする説などがある。いずれも、「グー」が石、「チョキ」がはさみを表している点は共通しているものの、「パー」については、日本では紙、中国や朝鮮半島では布を意味しており、微妙な差がある。ただ、日本国内でも地域によってはパーを布としているところもあり、紙と布のどちらが最初に考えられたものかは定かでない。

さらに、日本で使われている「グー、チョキ、パー」のジャンケン以外にもベトナムやラオス、インドネシア、タイなどの国々には独自のジャンケンが存在している。そうしたことから、東アジア、東南アジアは世界の中でもジャンケン（三すくみの遊び）が発展してきた地域だと言える。

一方、欧米諸国の遊びの中にはジャンケンにあたるもの見られず、また、順番などを決めるときはコインを用いることが多いことから、現在広まっている「Rock, Scissors, Paper, Go!」は、「グー、チョキ、パー」のジャンケンを直訳したものであるとする考え方が一般的である。中には、「グー」の意味が「石」ではなく、「ハンマー」としているところもある。

最近では日本文化の海外新出に伴い、ジャンケンは世界的に広まっており、カナダのトロントでは、2002年よりジャンケンの世界大会が毎年開かれている。

各国のジャンケン

国名	かけ声	三すくみの関係
中国	ツアイ イ ツアイ	石、ハサミ、布
韓国	カイ バイ ボ	石、ハサミ、布
インドネシア	スイー	蟻、人、ゾウ
フィリピン	ジャンク エンド ポイ、 ( ハーリ ハーリホオイ、 シーノ アン マタロ、 シヤァ アン ウンゴオイ ) * ( ) の部分は、「負けたら猿になっちゃうよ」という意味。長くて複雑な発音なので、児童が負担に感じるようであれば、省略してもよい。	石、ハサミ、紙
ベトナム	ワン トゥー ティー	ハンマー、ハサミ、葉
マレーシア	オー ジュス	石、くちばし、川
タイ	ヤン イン ヤオ パカ パオ イン チュップ	ハンマー、ハサミ、紙
ミャンマー	ポー、ジャー、タア ヌア、 チャイ タア ゴウ ニヤニヤ ピエ * かけ声は、「大将、虎、銃 好きなものを出せ!」という意味。	虎、大将、銃

伝統的な日本のジャンケン

(1)「ジャンケンポン」のかけ声は、場所によっていろいろな言い方があります。

地方 / 地域	かけ声
仙台	いしけんぎっ / じっけっぴっ
関西	いんじゃんほい / いーんじゃーんで、ほーい
愛知・岐阜・三重	いんちゃんし
北関東	じーげんぴっ
静岡	じすとっぺ
山陽、南東北	じっけった
北海道	じゃらけつほい
飛騨	じゃんけんしっ

(2)「三すくみの関係」が、「石、ハサミ、紙」以外のジャンケンもたくさんあります。

名前	三すくみの関係		
虫拳	カエル(なめくじに勝つ)	へび(カエルに勝つ)	ナメクジ(へびに勝つ)
ブーサ 沖縄県に伝わる男の子の遊び。	火(へびに勝つ)	へび(水に勝つ)	水(火に勝つ)
沖縄の遊び	木(鳥に勝つ)	鳥(虫に勝つ)	虫(木に勝つ)
沖縄の遊び	お父さん(お母さんに勝つ)	お母さん(子どもに勝つ)	子ども(お父さんに勝つ)
庄屋拳	庄屋(鉄砲に勝つ)	鉄砲(狐に勝つ)	狐(庄屋に勝つ)
清正じゃんけん	加藤清正(虎に勝つ)	虎(母に勝つ)	母(清正に勝つ)

## 【本題材に関連した英語表現】

### <英語によるジャンケンのかけ声>

英語圏の国には元々「グー、チョキ、パー」のジャンケンがなかったため、日本語の言い方を英訳したものが主流であり、いくつかの言い方がある。

- ・ Let's play Janken, 1, 2, 3!
- ・ Janken, go!
- ・ 1, 2, 3!
- ・ Rock, scissors, paper!
- ・ Rock, scissors, paper, go!
- ・ Rock, scissors, paper, shoot!

### <ジャンケンに誘う場合の言い方>

英語で「ジャンケンをする。」と言う場合の動詞については、do または、play が考えられるが、児童にとっては、play soccer, play baseball, play the piano などのように、play を用いた表現に触れる機会が多い。そこで、本時の活動では、Let's play janken. を使って友達を誘うこととした。

外国のジャンケンに友達を誘う場面では、例えば「インドネシアのジャンケンをやろう。」という時に、正確には、Let's play Indonesian janken. となるが、それぞれの国名を形容詞形に変化させて用いることは、児童にとって負担が大きいと考える。そこで、「Indonesian (インドネシアの～)」にあたる部分は、「インドネシア」、「タイ」などの日本語の国名をそのまま用いることとした。

### <英語以外のかけ声>

東アジアや東南アジアなど独自のジャンケンがある国々では、当然、その国の言語でジャンケンが行われている。本時で扱うかけ声の中には、発音が複雑で、児童には難しく感じるものもあるが、国際理解を深めるという意味から、現地のかげ声でジャンケンをすることとした。

### <ジャンケンで勝ったり、負けたりしたときの表現>

多くの友達とコミュニケーションを楽しむということを考えると、ジャンケンを終えた後で、無言のまま相手を変えることは、非常に不自然な行動である。そこで、ジャンケンの勝敗が決まった時にお互いの気持ちが表現できるよう、「勝った時、負けた時の気持ちを表す言い方」をいくつか紹介しておくといよい。

#### <表現の例>

勝ったとき

Oh good. Wow. I got it. OK.

負けたとき

Oh, no! Oh my god.